

「永遠の記憶」 東野圭吾 著 文藝春秋出版社 2026年8月5日発行

みなさんは、「ガリレオ・ガリレイ」というイタリアの自然科学者をご存知だろうか。実験や観察などの客観的なデータを用いた科学的手法により、主に、天文学や物理学の分野で多大な功績を残した人物である。そのガリレオと称された天才物理学者・湯川学を主人公にした連作推理小説『ガリレオシリーズ』の最新刊が、今回、ご紹介をする「永遠の記憶」だ。著者は、東野圭吾さん。残念ながら、68歳という若さで、今年7月にお亡くなりになったが、大学は理系の出身らしく、科学的なトリックが随所に盛り込まれ、数多くの作品が様々な文学賞を受賞している。テレビでも、推理小説『ガリレオシリーズ』を原作としたドラマは有名であり、恥ずかしながら、自分はテレビの前で、今回はどんなトリックが登場してくるのか、ワクワクしながら見入っていた。

さて、東野圭吾さんの遺作でもある「永遠の記憶」についてだが、トリックの部分である謎解きは、先入観や直感での結論を急がず、ひとまず原点に戻る。一見、無関係に思えることやほんの些細な情報も見逃すことなく、科学的思考（観察・分析・仮説・検証）により主人公が見事に解き明かしていく。それと同時に、一方では、科学では解決できない人間の感情の奥深さが大事に描かれていて、過去の『ガリレオシリーズ』作品と密接に繋がっていることに心が震えた。物語に引き込まれ、読み終えた後には、東野圭吾さんの小説をデビュー作からすべて読みたくなってしまったのは言うまでもない。